


団体名	NPO法人にじろく	活動タイトル	あたたかく見守ってもらえる地域・石巻プロジェクト	
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは「子どもや子育てをあたたかく見守ってもらえる社会」（子どもや子育てに理解ある社会状況）の実現である。子どもの育ちや、子育ての責任を子どもや養育者の問題としてだけでなく、地域や社会全体の責任（社会課題）として捉え、子どもの育ちを見守る当事者意識を持った社会状況をめざす。</p>		<p>「ポジティブ・ディシプリン講座風景」 ①</p>	 <p>ファシリテーターと受講者が子どもの発達や考え方について理解を深め、前向きな子育ての実践につなげていきます。 ※「ポジティブ・ディシプリン講座」とは罰に代わる子育てへの取り組み方を提案する養育者支援のプログラムです。</p>
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>「東日本大震災の被災地を子どもたちとともに居場所づくりを通して心豊かなまちにします」という理念の下、子どもと、子どもを取りまく人々が安心して過ごせる社会実現に向け以下の取り組みを推進する。 1)東日本大震災の被災児童支援の継続。 2)子どもを見守るコミュニティー作り 3)子どもの健全育成に関する講座・ワークショップ・ネットワーク作りの企画・実施・運営およびそれらへの参加・協力。</p>			
<p>● 団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人的資源：子どもや養育者の気持ちに寄り添い、多様な人々をサポートできる託児ボランティア、地域ボランティアの育成。 ● 望ましい物的資源：行政と協働し、地域企業や子ども支援団体、地縁・地域組織との連携。 ● 望ましい活動資金：自主財源（寄付・賛助会費・自主事業）を確保し、活動に見合った公的資金（補助金）の活用。 ● 望ましい情報：団体活動において子どもの権利を理解し、子どもと養育者が守られるべき存在であることを周知する。団体の事業運営についてスタッフ全体で意見発言でき、情報共有しながら進められる。 			
<p align="center">■ 活動報告 <400字程度></p>		<p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>【ポジティブ・ディシプリン講座開催、周知活動】 団体が活動重点地域としている石巻市釜地区において、年間2回のプログラム開催を行った。怒鳴らないたたかない子育てについて広く周知につなげるためプログラム開催チラシを学区内小学校、児童クラブ支援員へ配布するなど間口を広げた。 【地域の居場所づくり】 講座参加者の交流と相互保育の場として託児会場の開放を継続させることで、地域で子どもを見守ってもらい、自身も見守る側になるなどの循環できる仕組み作りを行った。 【行政、他団体との連携基盤づくり】 石巻市総合相談センターとの連携を継続させ、プログラム共催定期開催につなげられた。チラシ配布において行政および、市内子育て支援関係団体の協力をお願いした。 【活動基盤強化、事業運営における人材の確保と育成】 石巻地区で活動できる認定ファシリテーターを新たに2名育成するための実地研修を行った。プログラム参加者が託児ボランティア、地域ボランティア、本事業に主体的にかかわる人材として参加できる仕組み、社会参加の機会づくりを行った。</p>		<p>【ポジティブ・ディシプリン講座開催、周知活動】 年間2回のプログラム開催により、20名の参加者は子どもの視点で子育て向き合う考え方を学んだことによる行動変容がみられた。児童虐待予防活動の周知を目的としチラシ配布の間口を広げたことにより、本事業を知るきっかけづくりにつながった。 【地域の居場所づくり】 プログラム開催時託児室の他、参加者が集まれる居場所づくりを継続させ、地域で子どもを見守るコミュニティーの基盤作りにつながった。団体他事業への参加協力も増えている。 【行政、他団体との連携基盤づくり】 予定していた支援者対象プログラムを行うことができなかったが、行政や子育て支援団体の協力でプログラム開催の周知を行うことができた。また協働団体である日本事務局きづとの連携強化により、新たな周知活動について協議検討を深めることができた。 【活動基盤強化、事業運営における人材の確保と育成】 3年計画で行っていた認定ファシリテーターの育成が5名となり、目標が達成された。ボランティア育成活動によって託児ボランティアの人員が確保できる体制ができた。</p>		
<p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>・プログラム参加者が、託児ボランティアとして協力できる仕組みによって地域交流が継続させられるとともに、相互保育を体験し、自身の子育ての不安を軽減しながら、地域の子育てを見守る人材として育成につながる。 ・これまでではプログラム参加者の職種を把握していなかったが、プログラム参加者の事後アンケートの結果で、本プログラムを他の養育者に進めたいとの回答が多数であることから、地域の子育てを支援している職種（美容関係、保険関係、自営業、スポーツ指導者など）へのアプローチも児童虐待の予防につながる効果的な方法と考えられる。 ・毎回、ボランティア参加者への丁寧な連絡を続けたことで、継続した活動参加につながった。託児について子どもたちが託児室で楽しく過ごす記録写真を参加者に見てもらえるよう準備していくことで安心してプログラムに参加できる環境作りにつながった。 ・自団体の拠点を使わずに、地域の集会場を開催場所としたことで、直接団体活動に参加したことのない地域住民との接点ができ、地域とつながる機会が生まれた。</p>		<p>「子どもや子育てをあたたかく見守ってもらえる社会」の実現に向けた本事業の取り組みによって、参加者は罰を用いない子育てへの理解を深め、育児ストレスからの児童虐待のリスク軽減、更には地域の子育てを見守る人材の育成につながった。 新たな課題として、アンケートの結果から、人と人の関りが持てない社会状況によって、子育ての不安を大きくしていることが分かった。必要なところに情報が届きづらい、子どもとその養育者の孤立、子育てや子どもの発達に不安を持つ養育者の増加、不登校児童の増加、児童虐待通報の増加などの課題が深刻化しており、環境改善には児童虐待予防の啓発としても子どもの意見や考え方が尊重され、子どもとその養育者が安心して子育てができる地域理解が必要であることから、本プログラムの実施継続に加え、他団体との連携し、子どもの声や思い・養育者の不安感を行政や地域の大人に届ける活動に取り組みたい。具体的には、行政や市議に向けた勉強会の開催や、事業報告会を実施し、子どもや子育てに理解を持った社会実現に向けて市民ネットワークを構築させていきたい。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>プログラム参加者同士の新たなコミュニティが形成され、地域の子育てを見守る託児・地域ボランティア人材の育成</p> <p align="center">を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>アンケート回答記述より「子ども、家族とのかかり方が変わった」「実践して効果があった」「子どもの気持ち、自分の気持ちと向き合うことができた」「子育てが楽しみのようになった」「色々な情報があるなかで、これを信じればいんだという指針ができて良かった」など参加者には前向きな行動変容がみられた。</p>